

「コンクリート工学年次論文集」Vol.32

和文論文・報告執筆要領

(社)日本コンクリート工学協会

1. 本執筆要領の対象

コンクリート工学年次論文集に掲載を希望する和文による「論文」・「報告」は、本執筆要領にしたがって執筆・提出されなければならない。

2. 著作権

掲載された「論文」・「報告」の著作権の行使のうち、複写・転載の許諾に関する権利については日本コンクリート工学協会に委任するものとする。

3. 論文と報告の区分

- (1) 「論文」とは、コンクリート工学に関する最近の研究成果について、目的、方法、結果、考察、結論等が明示されており、それだけで完結しているものをいう。学術的または技術的に価値があり、原則として未発表のものに限る。
- (2) 「報告」とは、技術的価値の高い工事報告、資料として有用性の高い調査報告、さらには、設計、施工、構造および材料等に関する最新の技術開発の成果報告をいう。原則として未発表のものに限る。

4. 原稿の体裁

- (1) 原稿の形式は、パソコンの文書作成ソフトで作成した A4 版 (25 字×47 行×2 段) 6 枚に図・表・写真が適切にレイアウトされた電子ファイルを、Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、全てのフォントの埋め込みをして変換した PDF (Portable Document Format) ファイルとする。
- (2) Acrobat PDF Writer は、フォント埋め込み等の細かい設定ができないため、使用を禁止する。
- (3) PDF ファイルの容量は、1.2 メガバイト以下とする。
- (4) 原稿は、5 ページ目の 30 行以上 6 ページ以内とする。6 ページ目が白紙の場合でも PDF ファイルは 6 ページで提出すること。
- (5) CD-ROM 版論文集は、PDF ファイルをそのまま (A4 版で) 収録する。

5. 題目と著者名

原稿提出後の題目、筆頭著者および連名者 (順番の変更も不可) の変更は認めない。ただし、査読委員会から題目の変更を求められた場合はこの限りではない。また、連名者は会員外でもよいが、3 名以下とする。

6. 論文・報告の内容

- (1) 研究の目的を「はじめに」等を書き、得られた主な成果を「結論」あるいは「まとめ」等を書くこと。
- (2) 「論文」については、本執筆要領を満足したもので、主として下記の項目のいずれかに該当する

かどうか重点をおいて、査読者3人の査読報告をもとにコンクリート工学年次論文査読委員会が審査を行い、採否を決定する。

- (a) 研究の対象に新規性があり、今後の発展性がある。
- (b) 研究の手法に独創性があり、今後の発展性がある。
- (c) 現象の解明に貢献している。
- (d) 新しい成果が盛られている。
- (e) 内容に総合性、普遍性があり、かつ工学上有用である。
- (f) 計画、調査、設計、施工などに取り入れる価値がある。

「報告」については、本執筆要領を満足したもので、主として上記の(c)、(d)、(e)、(f)および下記の項目のいずれかに該当するかどうか重点をおいて、査読者3人の査読報告をもとにコンクリート工学年次論文査読委員会が審査を行い、採否を決定する。

- (g) 技術的検討結果に新規性があり、今後の発展性がある。
 - (h) 困難な技術的問題を克服したプロセスおよび結果が報告されている。
- (3) 「論文」・「報告」ともに不適当と認められるものには、次のようなものがある。
- (ア) 執筆要領が守られていないもの。
 - (イ) 上記の「論文」あるいは「報告」の項目のいずれにも該当しないもの。
 - (ウ) 同一もしくは類似の研究発表が行われているもの。ただし、既発表の研究内容を前進させたものは、この限りでない（[参考資料] **未発表・既発表に関する基本的な考え方を参照**のこと）。
 - (エ) 最終提出する修正原稿において、審査段階の「論文」あるいは「報告」から、コンクリート工学年次論文査読委員会から指摘された事項以外に大幅な変更が加えられたものや、査読委員会から指摘した修正事項が満たされていないもの。
- (4) 使用材料・機器等の商品名の記述は、「論文」の場合にはこれを避けて、主成分、使用性能等を表す一般名称によって表現すること。また、「報告」の場合も可能な限りこれを避けて、商業宣伝に偏しないように注意すること。ただし、「論文」あるいは「報告」とも、解析ソフトの商品名を解析方法の説明に用いる場合など、論文の内容を説明するためには必要不可欠であり、かつ必要最小限の情報に関しては、その限りではない。

7. 原稿の書式

原稿は、パソコンの文書作成ソフトで、A4サイズ横書き 25字×47行の2段組、余白を上25mm、下20mm、左22mm、右22mmとして作成する。最後のページの文末は、左右の段を出来る限り揃えて終えること。詳細は、原稿書式の例を参照のこと。

本文の字体（フォント）は、表-1に示すものを使用し、色は黒、大きさは9ポイントとする。使用する句読点はカンマ「、」と句点「。」とする。その他の種類のフォントに関しては、PDFファイル作成時の「フォント埋め込み」が正常に行えなく、パソコンの機種によってPDFファイルの文字が正常に表示されない場合があるので、使用しないこと。

本文に使用してはいけない文字を、表-2（Windowsの場合）、表-3（Macintoshの場合）に示す。これらの文字を使用すると、パソコンの機種によっては、作成した原稿のPDFファイルの文字が正常に表示されない場合があるので使用しないこと。また、半角カタカナ文字も本文に使用してはならない。

[注] 原稿提出後、1 ページ目右上に「コンクリート工学年次論文集, Vol.32, No.○, 2010」を、また各ページ下中央にページ数を事務局で一括して書き込むため、提出原稿のヘッダ、フッタ（原稿の上部および下部の余白）にページ数、著者の名前等を一切記載しないこと。

表-1 本文に使用する文字のフォントおよび大きさ

		フォントの種類		文字の大きさ
		Windows	Macintosh	
本文	和文	MS 明朝	平成明朝, MS 明朝	9 ポイント
	英文	Times, Times New Roman		
	英数字の記載	Times, Times New Roman, Symbol		

[注] 文字の色は黒とする。

表-2 原稿作成に使用してはいけない文字 (Windows)

文字種類	本文に使用してはいけない文字																			
特殊文字	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳	
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	ミ	キ	セ	メ	グ	ト	ア	ヘ	リ	フ
	カ	ド	セ	ベ	ミ	ベ	mm	cm	km	mg	kg	cc	m ²	"	//	No.	KK	TEL	⊕	⊗
	⊕	⊗	⊙	(株)	(有)	(代)	Ⓜ	㊦	㊧	㊨	㊩	㊪	㊫	㊬	㊭	㊮	㊯	㊰	㊱	㊲
	∴	∩	∪																	
	纒	襲	鏝	銈	𨮒	𨮓	𨮔	𨮕	精	銀	昇	剪	丨	仂	任	公	仔	但	佻	佻
	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻
	𠂇	𠂈	𠂉	𠂊	𠂋	𠂌	𠂍	𠂎	𠂏	𠂐	𠂑	𠂒	𠂓	𠂔	𠂕	𠂖	𠂗	𠂘	𠂙	𠂚
	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝	垝
	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇
	忝	愠	悦	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠	愠
	昕	昂	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉	昉
	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞	栞
	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆	沆
	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢	滢
	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄	狄
	皂	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦	皦
	𠂇	𠂈	𠂉	𠂊	𠂋	𠂌	𠂍	𠂎	𠂏	𠂐	𠂑	𠂒	𠂓	𠂔	𠂕	𠂖	𠂗	𠂘	𠂙	𠂚
	蒨	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓	蕓
	賸	賴	賢	趕	趕	軋	返	逸	達	郎	都	鄉	鄧	鈞						
釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	釧	
覲	銅	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	
鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	鏞	
飼	餽	館	餽	騏	高	騏	飴	飴	鮓	鮓	鮓	鮓	鰻	鰻	鰻	鰻	鰻	i	ii	
iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	x	一	丨	'	"									
半角文字	。	「	」	、	ヲ	ア	イ	ウ	エ	オ	ヤ	ユ	ヨ	ッ	ー	ア	イ	ウ	エ	オ
	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ヌ	ネ	ノ	ハ
	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ン	ゝ
。																				

表-3 原稿作成に使用してはいけない文字 (Macintosh)

文字種類	本文に使用してはいけない文字																			
特殊文字	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳	
	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	i
	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	x	mm	cm	mm ²	cm ²	cm ³	m	m ²	m ³	km	km ²	mg
	g	kg	cc	mℓ	dℓ	ℓ	kℓ	ms	μs	ns	ps	°F	mb	HP	Hz	KB	MB	GB	TB	
	ミ	セ	メ	キ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ヌ	ネ	ノ	ハ
	ドル	ペ	セ	メ	キ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ヌ	ネ	ノ
	Ⓢ	Ⓣ	Ⓝ	Ⓞ	Ⓟ	Ⓠ	Ⓡ	Ⓢ	Ⓣ	Ⓤ	Ⓥ	Ⓦ	Ⓧ	Ⓨ	Ⓩ	ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ
	ⓕ	ⓖ	ⓗ	ⓘ	ⓙ	ⓚ	ⓛ	ⓜ	ⓝ	ⓞ	ⓟ	ⓠ	ⓡ	ⓢ	ⓣ	ⓤ	ⓥ	ⓦ	ⓧ	ⓨ
	ⓩ	⓪	⓫	⓬	⓭	⓮	⓯	⓰	⓱	⓲	⓳	⓴	⓵	⓶	⓷	⓸	⓹	⓺	⓻	⓼
	☎	☎	♠	♣	♥	♦	♠	♣	♥	♦	♠	♣	♥	♦	♠	♣	♥	♦	♠	♣
	↔	↔	↕	↕	↔	↔	↕	↕	→	←	↑	↓	♠	♣	♥	♦	♠	♣	♥	♦
	ㄷ	ㄹ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅣ	ㅍ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㆁ	ㆂ	ㆃ	ㆄ	ㆅ	ㆆ	ㆇ	ㆈ	ㆉ	ㆊ
	ㄷ	ㄹ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅣ	ㅍ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㆁ	ㆂ	ㆃ	ㆄ	ㆅ	ㆆ	ㆇ	ㆈ	ㆉ	ㆊ

8. 論文・報告の種別, 題目, 著者名, 所属先, 要旨, キーワード等の書式 (書式例参照)

(1) 論文・報告の種別

論文・報告の種別は, 第1ページの1行目に左寄せで記載する。フォントは MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh) とし, 大きさは14ポイントとする (表-4 参照)。

(2) 題目

題目は, 第1ページ1行目の「論文・報告の種別」に1文字あけて記載する。フォントは MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh), Arial・Helvetica (Windows, Macintosh) とし, 大きさは14ポイントとする (表-4 参照)。題目に使用してはいけない文字は, 本文と同じとする (表-2, 表-3 参照)。題目が1行に収まらない場合は, 2行目の左から4文字目 (1行目の題目の書き始めの位置と同じ位置) から続きを書き出すこと。

(3) 著者名

著者名は, 題目から1行あけて, 中央揃え (センタリング) で記載する。コンクリート工学講演会での発表者を筆頭著者とすること。フォントの種類, 色, 大きさ, および, 使用してはいけない文字は, 本文と同じとする (表-2, 表-3, 表-4 参照)。著者と所属とは, 各著者の右肩に上付き文字で対応づけ, * (アスタリスク) + 数字で示すこと。

なお, 連名者は会員外でもよいが3名以下とする。

表-4 論文・報告の種別，題目，著者名，所属先，要旨，キーワード等に
使用する文字のフォントおよび大きさ

	フォントの種類		文字の大きさ
	Windows	Macintosh	
論文・報告の種別	MS ゴシック	中ゴシック，平成角ゴシック，MS ゴシック	14 ポイント
題目	MS ゴシック	中ゴシック，平成角ゴシック，MS ゴシック	14 ポイント
	Arial, Helvetica		
著者名	MS 明朝	平成明朝，MS 明朝	9 ポイント
	Times, Times New Roman, Symbol		
所属先	MS 明朝	平成明朝，MS 明朝	
	Times, Times New Roman, Symbol		
要旨*	MS 明朝	平成明朝，MS 明朝	
	Times, Times New Roman, Symbol		
キーワード*	MS 明朝	平成明朝，MS 明朝	
	Times, Times New Roman, Symbol		

[注 1] 文字の色は黒とする。

[注 2] * : 書き出しの「要旨：」および「キーワード：」の表記は，フォントを MS ゴシック (Windows, Macintosh) もしくは，中ゴシック，平成角ゴシック (Macintosh) とし，大きさは 9 ポイントとする。

【記載例】

新井 安雄^{*1}・神田 真^{*2}・佐藤 一^{*3}・田中 直人^{*4}

(4) 所属先

所属先は，各著者の右肩に付した*(アスタリスク)+数字に対応する脚注とし(上付き文字としない)，「勤務先名 所属部署 肩書 学位 会員表示 (括弧書き)」を示すこと。フォントの種類，色，大きさ，および，使用してはいけない文字は，本文と同じとする (表-2，表-3，表-4 参照)。

*1 ○○大学大学院 工学研究科○○学専攻 (正会員)

*2 ○○大学 工学部○○学科助教授 工博 (正会員)

*3 ○○建設(株) ○○事業本部○○部○○課課長 工修 (正会員)

*4 ○○省 ○○研究所○○研究部○○研究室主任研究員 Ph.D. (正会員)

[注] 法人種別は(株) (有) (財) (社) 等の省略形とすること。法人の省略形の記載には，記号の(株) および(有) 等は，PDF ファイルでの文字化けの原因になるので使用しないこと (表-2，表-3 参照)。法人名は正式の名称で表示し，JR，NTT，NEXCO 等の“通称”は用いないこと。

(5) 要旨

要旨は，著者名から 1 行あけて書き始め，必ず 1 段組とする。また，左右両端を 2 文字ずつあけて記載し，長さは，4 行から 6 行まで (150 字から 270 字) とする。

見出しの「要旨：」のみ，ゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh)，中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) で記載し，要旨の文章のフォントの種類，色，大きさ，および，使用してはいけない文字は，本文と同じとする (表-2，表-3，表-4 参照)。

(6) キーワード

キーワードは、要旨の次の行から書き始め、必ず1段組とする。また、左右両端を2文字ずつあけて記載し、1行以内に収まる語数をカンマ「,」で区切ること。

見出しの「**キーワード:**」のみ、ゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) で記載し、それに続くキーワードのフォントの種類、色、大きさ、および、使用してはいけない文字は、本文と同じとする (表-2, 表-3, 表-4 参照)。

9. 本文の書式

本文は、キーワードのあとに1行あけて記載すること。本文のフォントの種類、色、大きさは、**7. 原稿の書式**および表-1を参照のこと。また、表-2および表-3に示した文字は、本文に使用してはならない。本文は必ず2段組とし、下記の【例】のように章、節の見出しは左端から書き出し、項の見出しは左端から1文字空けて書き出す。また、番号のあとに半角スペースを空けて記載し、それだけで1行とること。なお、章、節、項の見出しは、数字も含めてゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) もしくは、Arial・Helvetica (Windows, Macintosh) とし、数字は半角とし、文字の大きさは9ポイントとすること。見出しに使用してはいけない文字は、本文と同じとする (表-2, 表-3 参照)。

各章の見出しの上側は1行あけること。節・項の見出しの上側はあけない。また、文の区切りにはカンマ「,」を、文末には句点「。」を使用すること。

本文の文末は、参考文献を記載し、左・右の段を揃えて書き終わるように作成すること。したがって、参考文献の後に図・表・写真は配置しないこと。

【例】 (章) 1. ○○○○○○
(節) 1.1 ○○○○○○
(項) (1) ○○○○○○

見出しの字体は数字も含めてゴシック体

10. 数式

極力簡潔にまとめ、式は3字あけてから書き出す。式の番号は半角にて(1), (2), (3)と表示し、式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は、式(1), 式(2)とする。数式に使用してはいけない文字は、本文と同じとする (表-2, 表-3 参照)。また、式と式番号との間にはリーダを付けない。

11. 単位

SI単位とする。

12. 図・表・写真の配置と作成方法

- (1) 図・表・写真は、本文の引用箇所に近いところに配置し、参考文献の後 (文末) には配置しないこと。
- (2) 図・表・写真は、表-6, 図-1 に示すようにページの幅一杯または段の幅一杯に配置し、これらの左右に文章を記載しないこと。また、本文との間に1行もしくはそれ以上の空自行を設けること。

- (3) 内容上どうしても同一ページに載せる必要がある場合を除き、図表のみのページを作ることのないよう、割付に配慮すること。
- (4) 図および写真にカラーを使用してもよいが、必ず線・点線や写真が判読できるか確認すること。特に薄い色（例えば、黄色、緑色、水色）に気を付けること。
- (5) 原稿に貼り付ける写真の解像度や色数は、原稿のファイルサイズに影響するので、必要最小限の解像度、色数にとどめること。

13. 図・表・写真の大きさとタイトル

- (1) 図・表・写真のタイトルは、ゴシック体の和文（図-＊ 和文）もしくは太字の英文（Fig.* English）で統一すること。文章中の引用においてもゴシック体の和文（図-＊ 和文）もしくは太字の英文（Fig.* English）で統一すること。タイトルおよび文章中に引用する文字のフォントの種類、色、および大きさは表-5の通りにすること。なお、タイトルに使用してはいけない文字は、本文と同じとする（表-2、表-3参照）。
- (2) 図・表・写真は、本文と区別できるように、番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行ずつ空白行を設けること。
- (3) 図・写真の番号・タイトルは図・写真（位置）の下に、表の番号・タイトルは表の上に記入すること。
- (4) 図・表・写真に使用する文字のフォントの種類、色、および大きさを表-5に示す。使用してはいけない文字は本文と同じとする（表-2、表-3参照）。図・表中の線の太さは、図-1および表-6に示す程度とするのが望ましい。

表-5 図・表・写真に使用する文字のフォントおよび大きさ

		フォントの種類		文字の大きさ
		Windows	Macintosh	
タイトル	和文表記	MS ゴシック	中ゴシック, 平成角ゴシック, MS ゴシック	9ポイント
	英文表記	Arial, Helvetica		
図・表・写真の文字		MS 明朝, MS ゴシック	中ゴシック, 平成明朝, 平成角ゴシック, MS 明朝, MS ゴシック	本文と同一が望ましい
		Times, Times New Roman, Arial, Helvetica, Symbol		

[注1] 文字の色は黒字とする。

表-6 表の例

粗骨材の 最大寸法 (mm)	スラ ンプ (cm)	水セメ ント比 (%)	空気量 (%)	細骨 材率 (%)	単位量(kg/m ³)				
					水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤 A
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

(表の罫線の太さは 0.5pt 以上とする)

図・表・写真は、一枚または複数枚でページ幅一杯に配置すること

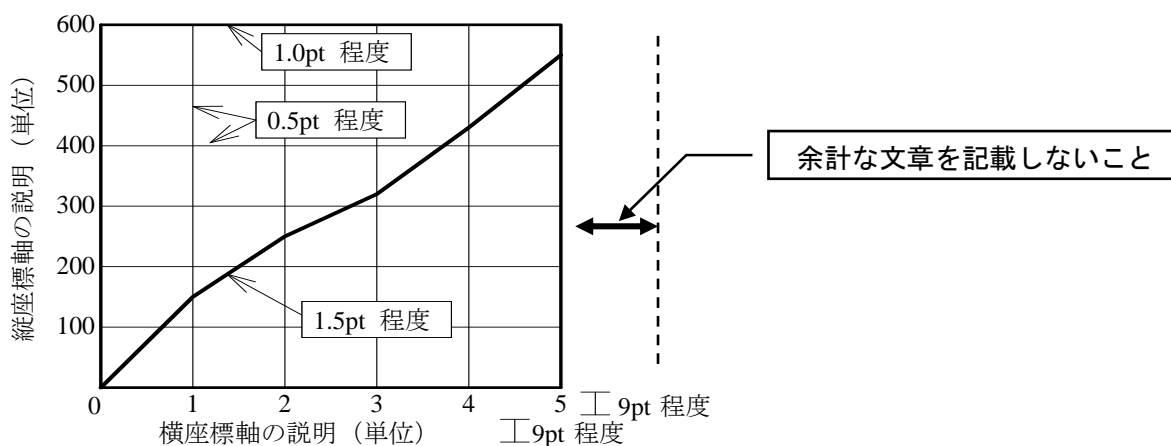


図-1 図の良い例と作図参考寸法

図・表・写真は、段幅一杯に配置し、余計な文章を記載しないこと

14. 参考文献

- (1) 参考文献は、投稿時に既発表のものに限る。また、参考文献に記載した文献は、本文で必ず引用すること。
- (2) 参考文献の見出しは、「結論」あるいは、「まとめ」のあとにゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh), 中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) の参考文献と記載する。また、フォントの大きさは9ポイントとする。
- (3) 参考とした文献名のフォントは、本文と同じ明朝体あるいは Times New Roman とし、大きさは9ポイントとすること。また、使用順に 1), 2)のように番号をふり、まとめて掲げること。
- (4) 文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に、上付数字で ^{1),2),3)...}のように明記する。
- (5) 参考文献は本文の文末に記載し、左・右の段を揃えて書き終えるように原稿を作成すること。
- (6) 記載方法
 - a) 論文等の場合

著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。

b) 単行本の場合

著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年の順とする。

c) 和文原稿の著者名は必ずフルネームで記す。もし，連名者が多い場合には，筆頭著者以外を「ほか」として省略してもよい。

d) 欧文文献の著者名は，姓を先に記し，名はカンマのあとにイニシャルで示す。また，連名者が多い場合には，et al.として省略してよい。

e) 発行年月

和文原稿の場合，西暦に統一して，1988.11，1991.2のように記す。欧文文献では，Nov. 1988，Feb. 1991のように記す。

見出しの参考文献のみゴシック体

[記載例]

参考文献

- 1) 小林一輔，魚本健人，嶋 文雄：コンクリート混和剤として
の高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度なら
びに乾燥収縮に及ぼす影響，コンクリート工学，Vol.17，No.
5，pp.87-95，1979.5
- 2) 森田司郎ほか：RC 外部柱・梁接合部の耐力と変形性状，コン
クリート工学年次論文報告集，Vol.19，No.2，pp.175-180，1987.6
- 3) 岡田 清，六車 熙編：コンクリート工学ハンドブック，朝
倉書店，1981
- 4) Malhotra, V.M.:Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural
Applications, Concrete International, Vol.8, No.12, pp.28-31, Dec.
1986
- 5) Collins, M. P. and Mitchell, D.:Shear and Torsion Design of
Prestressed and Non-Prestressed Concrete Beams, PCI Journal,
Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct. 1980
- 6) コンクリート工学年次大会投稿画面 FAQ 参照：
<http://www.jci-net.jp/rally/2006/denshi/index.htm>

文字の大きさは9ポイント

15. PDF ファイルの作成および注意事項

PDF ファイル作成時の注意事項を以下にまとめる。詳細については，ホームページの PDF 作成方法（「電子投稿のページ（<http://www.jci-net.jp/rally/2010/denshi/index.htm>）」の「FAQ」に掲載）を参照のこと。

(1) フォントの埋め込み

Acrobat Distiller または Adobe PDF（アドビシステムズ社：Adobe Acrobat に付属）を使用し，全てのフォントの埋め込みをして作成した PDF ファイルとする。詳細は，ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。

(2) Acrobat PDF Writer の使用禁止

Acrobat PDF Writer は，フォント埋め込み等の細かい設定ができないため，使用を禁止する。

(3) PDF ファイルの容量

PDF ファイルの容量は、1.2 メガバイト以下とし、これを超えたものは受け付けない。PDF ファイルが 1.2 メガバイトを超えた場合の対策としては、

- a) PDF ファイルへの変換時の「カラービットマップ」もしくは「グレースケールビットマップ」の解像度（デフォルトは、72dpi）の設定を小さくする。詳細はホームページの PDF 作成方法を参照のこと。
- b) 原稿に貼り込んだ写真の解像度および色数を小さくする。写真を白黒にする。写真を原稿に貼り込んだ後に縮小しない。

(4) 禁止する設定

- a) PDF ファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定をしないこと。設定の確認方法および解除のしかたは、ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。
- b) PDF ファイルの「開き方の設定」を、初期表示は「ページのみ」を選択し、「しおりとページ」および「サムネールとページ」は選択しないこと。また、「ウインドウオプション」および「ユーザーインタフェースオプション」の項目はいずれもチェックしないこと。設定の確認方法および解除のしかたは、ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。

(5) PDF 変換後の必須確認事項

- a) PDF ファイル変換後、全てのフォントが埋め込みされていることを必ず確認すること。 確認方法の詳細については、ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。
- b) 図および写真は、カラーを使用してもよいが、必ず色や写真が判読できるか確認すること。なお、CD-ROM の論文集は、最終原稿提出時の PDF ファイルがそのまま掲載される。
- c) PDF ファイルへの変換後に印刷して、原稿のイメージがワードプロセッサで作成したものと変わっていないかを必ず確認すること。特に、PDF ファイルへ変換後にページ数が 7 ページ以上に増えている場合があるので、注意すること。

16. 審査用原稿の締切りおよび提出方法

審査用原稿は、2009年12月1日(火)10:00より2010年1月14日(木)17:00までの期間に、下記アドレスのホームページにて PDF ファイルの形式で提出する。締切りの前日および当日は、原稿受付システムが混雑し、投稿に時間がかかることが予想されるので、早めに提出することを推奨する。

なお、これに遅れた場合は、如何なる理由（例えばパソコンの故障、回線の異常など）があっても原稿を受付けないので、期限を厳守すること。

また、締切り後の著者・題目・区分（論文・報告）の変更は、入力ミスであろうと一切できないので注意すること。

提出方法の詳細についてはホームページを参照のこと。

<http://www.jci-net.jp/rally/2010/denshi/index.htm>

- [注]
- (1) 原稿提出前に、原稿チェックシートで原稿の体裁を確認すること。
 - (2) 提出原稿の PDF ファイルは、圧縮処理をしたファイル等で送付しないこと。
 - (3) ホームページの原稿受付システムで原稿を送付する際に、CD-ROM 論文集内の検索データベース作成のため、提出原稿の要旨およびキーワードをホームページ上に入力する必要がある。

17. 修正原稿の締切りおよび提出方法

審査結果が「採用」の場合の最終原稿および、「条件付き採用」,「再査読」の場合の修正原稿は, 2010年3月19日(金)10:00(予定)より2010年4月5日(月)17:00までの期間に, 下記アドレスのホームページにてPDFファイルの形式で提出する。締切りの前日および当日は, 原稿受付システムが混雑し, 投稿に時間がかかることが予想されるので, 早めに提出することを推奨する。なお, これに遅れた場合は, 如何なる理由(パソコンの故障, 回線のトラブルなど)があっても原稿を受けないので, 期限を厳守すること。提出方法の詳細については下記アドレスのホームページを参照のこと。

<http://www.jci-net.jp/rally/2010/denshi/index.htm>

- [注]
- (1) 原稿提出前に, 原稿チェックシートで原稿の体裁を確認すること。
 - (2) Acrobat Distiller または Adobe PDF を使用し, 全てのフォントが埋込みなされているか, PDF ファイルを確認すること。
 - (3) 提出原稿の PDF 形式のファイルは, 圧縮処理をしたファイル等で送付しないこと。
 - (4) 最終提出する修正原稿において, 審査段階の「論文」・「報告」から, コンクリート工学年次論文査読委員会から指摘された事項以外の大幅な変更が加えられた場合は, 不採用となることがあるので注意すること。
 - (5) 修正原稿の要旨およびキーワードを, 審査原稿のものから変更した場合は, 修正原稿を投稿する際に, 投稿画面上の要旨およびキーワードも修正すること。
 - (6) 査読委員会から題目の修正を求められた時は, 修正しても構わないが, 修正する旨を事前に事務局まで報告すること。

18. 注意事項

- (1) 筆頭著者の連絡先・所属(住所, 電話番号を含む), 連名者の所属が変更になった場合は, 速やかに投稿画面上の連絡先変更受付ページで申込み内容の変更を行うこと。著者に必要な情報が届かず, 講演できないこともある(随時受付)。
- (2) 採用された論文・報告は, 第32回コンクリート工学講演会で発表すること。
- (3) 筆頭著者は, 第32回コンクリート工学講演会が行われる年次大会参加料を納入すること。大会参加料は, 会員・一般, 会員・学生と分かれている。会員・学生とは, 参加料を納入する時点で, 学生証の提示ができることが条件である。なお, 大会参加料は, 協会誌4月号に掲載する。
- (4) 講演会での発表者は, 急病等の特別の場合を除き, 筆頭著者に限定する。
- (5) 原稿作成に関し, 不明な点は下記ホームページのFAQを参照のこと。

<http://www.jci-net.jp/rally/2010/denshi/index.htm>

- (6) FAQを見ても不明な点, および執筆要領に関する問合せ先:
(社)日本コンクリート工学協会・学術課「年次大会係」
担当: 戸口
FAX: (03)3263-2115
E-mail: jcinenji@jci-net.or.jp

以上

[参考資料]

未発表・既発表に関する基本的な考え方

投稿する論文・報告は原則として未発表のものに限ることが「投稿規定」に定められているが、未発表・既発表に関しては次のような考え方に基づいて行うものとする。

記

- (1) 学術論文として刊行・公表することを主目的とし、審査機関の審査を経た論文・報告は、本協会、他学協会の刊行のいかんにかかわらず、既発表扱いとする。
- (2) 講演会、研究発表会、コロキウム、シンポジウム、国際会議等で、論文集編集のための独自の組織により、査読を経て登載された論文・報告は、本協会または他学協会の主催にかかわらず、既発表扱いとする。
- (3) 上記(1)、(2)の場合でも、新たな知見や視点が加わって再構成された論文・報告、および既に発表されている個々の内容を総合することによりレベルアップされた論文・報告は、投稿を受け付ける。
- (4) (2)の講演会などで講演を主とし、その梗概または資料として発表されたものは未発表扱いとする。
- (5) 各研究機関が発行する紀要、年報、所報などに発表されているものは、部内発表と考え、広く周知する必要性から、審査の有無にかかわらず未発表扱いとする。
- (6) 国、自治体、業界、団体からの委託研究の成果報告書は、未発表扱いとする。
- (7) 個々の論文・報告が未発表に該当するか否かの判定は、委員会で行う。

注記： 上記(3)、(4)、(5)、(6)のいずれかに該当するとして投稿する場合、未発表に該当するか否かを正確に判定するため、投稿にあたって、著者には既発表の内容がどの刊行物に発表されているかを報告することが義務付けられる。なお、発表言語が異なっても、内容が重複する場合は同一の論文・報告とみなす。

また、既発表関連記事のコピー4部(A4サイズ)を1月15日(金)必着で事務局まで送付すること。

〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-7 相互半蔵門ビル 12 階
(社) 日本コンクリート工学協会 年次大会 係

以 上